

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立南川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力の維持・向上についての対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年の学習理解に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力などに影響する内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

#### ■ 調査結果及び考察について

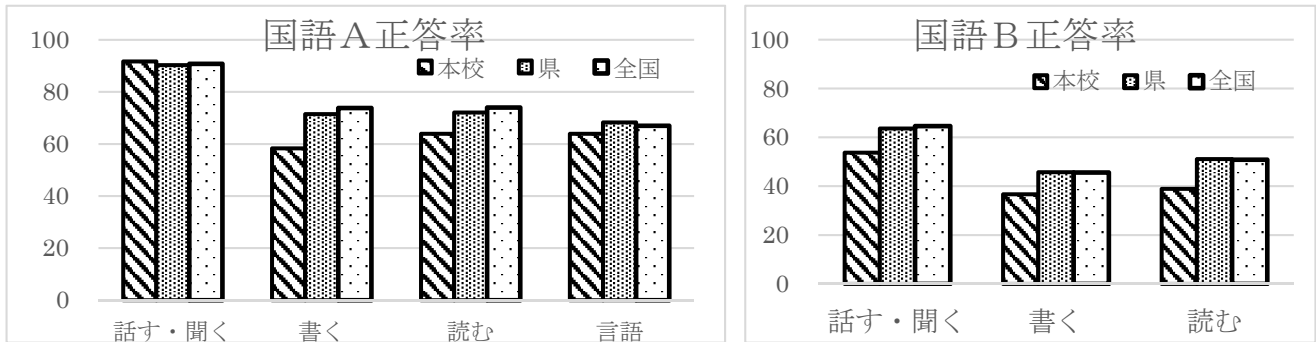
全国学力学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 県・全国正答率との比較



国語Aの話す・聞くの領域では、県・全国平均を上回りました。しかし、他の各領域では県・全国平均を下回りました。記述式の問題を苦手としている傾向にあり、県平均を下回りました。また、いくつかの条件に合うように解答する問題では、その条件に全て合うように書けていない児童が多かったです。

分布の割合を見ると、県・全国の分布表と比較して、中位より若干低い児童の割合が多いです。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・互いの立場や考えを明確にしなが、計画的に話し合うことができるかを問う問題では、県や全国の平均より低い結果でした。計画的に話し合うためには、司会者等の役割を把握させ、目的に応じた進行や互いの発言を理解することの大切さに気付かせる必要があります。

##### 書く

・複数の事柄を関係付けながら自分の考えを具体的に書く問題では、書いた内容が条件を満たしていないことから間違いとなるものが多くありました。問われている事柄と自分の考えを比較してまとめることや問題の条件を見落とさず注意して読み取り、条件に合うように書く力をつける必要があります。

##### 読む

・文章の内容を的確に理解し、自分の考えを明確にしなが読む問題では、25%前後の児童が無回答でした。内容を的確に理解するためには、文全体の流れを考えなが、読む力をつける必要があります。さらに、自分の経験や考えと比較しなが読み進めることが大切です。

##### 言語事項

・漢字の読み書きの問題は、県平均とほぼ同じでした。スキルタイムや宿題などの日々の積み重ねの効果が見られます。しかし、主語と述語の関係を的確に理解できていない児童がいました。今後さらに宿題の内容の工夫をしたいと考えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 南川副小型授業（めあて・学び合い・まとめ・振り返り）をもとに、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて考えを深めたりする授業改善の取組を継続していきます。
- 書く力を伸ばすために、文章のキーワードを見つけたり、全体をまとめたりする活動にこれまで以上に取り組みます。また、授業やスピーチタイムを活用して、主語や述語のつながりを意識し、順序立てて話したり、書いたりする場面を設定します。
- 朝の時間にスキルタイムA・Bを設定し、繰り返し学習で基本的な学習の定着と活用力の育成を図ります。

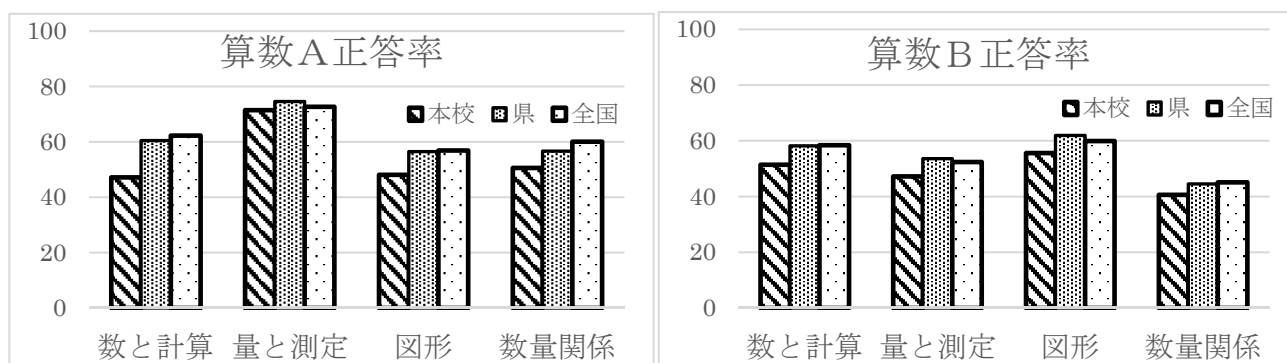
##### 【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげてください。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、共感したり、根拠を尋ねたりして、お互いの考えを交流してください。

## 2 算数

### (1) 結果

### 県・全国正答率との比較



どの領域も県・全国平均を下回る結果になりました。特に、数と計算・数量関係の領域が全国平均との差が大きくなりました。分布の割合を見ると、県・全国の分布表と比較して、理解の進んでいない児童の割合が多くなりました。理由や方法を書く問題を苦手としている児童が多いと見られ、無解答も多くありました。

### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・数と計算では、特に小数の割り算の意味を理解しているかを問う問題と、もとにする量を求める問題の正答率が低くなりました。図や数直線などを用いて数量の関係を的確に捉えて、立式することが必要です。授業では、立式のときに数量の関係を整理させ、図や数直線の使い方とその活用の仕方を習得させます。

#### 量と測定

・量と測定は全国平均に近く、全校平均を上回る問題もありました。180° の大きさは、100%の正答率でしたが、180° を越える角の大きさに関する正答率は55%でした。量の測定では、見当をつけ、どこを測定するのかを確実に捉えることが大切です。低学年からの定着を確実にしていきます。

#### 図形

・円周率を理解しているかを問う問題の正答率が25%と低くなりました。公式をただ覚えるだけでなく、そこに出てくる言葉の意味と関係を把握しておくことが大切です。また、文章で書いて答える問題は全国平均を下回りました。無答も多く、筋道を立てて文章で書いて答える問題を苦手としています。

#### 数量関係

・グラフの読み取りは全国平均をほぼ同じでしたが、百分率を求める問題では、全国平均を下回りました。割合の意味を理解し、比較量と基準量を正しく捉えることが必要です。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 図や数直線、式、言葉を使って数量の関係を明確にし、筋道を立てて考える力を育成する授業を実践していきます。また、南川副小型授業を通して、順序立てて考え相手に分かりやすく伝えたり、友達の意見を聞いてよりよい解決方法を追求したりする授業を継続していきます。
- 朝のスキルタイム AB で、基礎・基本の定着を図るとともに、記述式の問題の繰り返し学習に取り組み表現力を育成していきます。
- T.Tや少人数授業を活用し、個に応じた指導・支援に努めます。

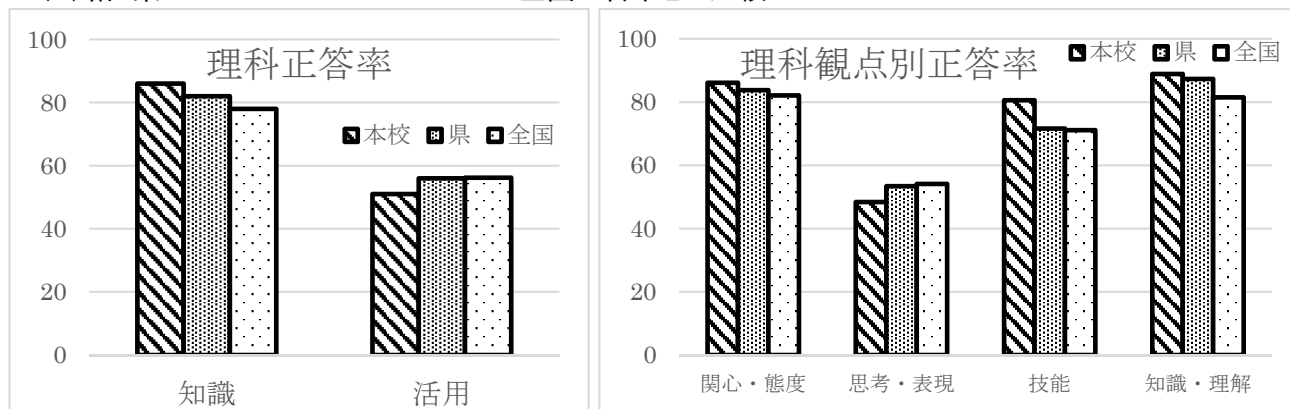
#### 【ご家庭では】

- お父さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通してください。そしてたくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。
- 算数好きにするには、「習ったことを生活の中で使うと便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。生活場面で算数を使ってみてください。

### 3 理科

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



基礎的な知識は身に付いており、実験や観察の技能や知識・理解の問題は県・全国平均を上回りました。しかし、思考・表現の問題は、全国平均を下回る結果となりました。文章で書いて答える問題は、無解答はほとんどなく、自分の考えを表現しようとする姿勢がうかがえました。

#### (2) 成果と課題

##### A区分(物質・エネルギー)

- ・物理に関する問題は、どの問題も県・全国平均を上回っていました。実験結果を根拠として考えて書く問題も全国平均を上回りました。
- ・エネルギーに関する問題は全国平均を下回り、特に電流の流れ方について、結果を見通して実験の方法を考える問題は全国平均を大きく下回りました。自らの予想や仮説を基に実験の計画を立てる学習を深める必要があります。

##### B区分(生命・地球)

- ・生命に関する問題は、ほぼ全国平均かそれを上回るものになりました。特に知識・理解に関する問題は、全国平均を大きく上回りました。
- ・地球に関する問題は、知識・理解に関する問題は、全国平均を上回りました。しかし、土地の侵食について、実験結果を基に考えて文章で答える問題は、全国平均を下回りました。観察や実験の結果を基に、「事実」と「考え」を示して説明できるようにすることが必要です。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 授業では、実験で「変える条件」と「変えない条件」に整理したり、結果の予想を立てその結果を導き出すために必要な実験は何かを考えさせたりして、実験計画を立てる時間を設定します。
- 実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。
- 実験や観察を充実させ、環境の整備を推進します。

##### 【ご家庭では】

- 子どもが理科学的なことに興味・関心をもったときに、理解を示したりそれにつき合ったりする大人や家族がいることは、理科好きな子を育てることにつながります。お子さんが科学や自然について疑問をもち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひお子さんと一緒に考えたり、アドバイスしたりしてください。そして、夏休みの自由研究などにも、ぜひ挑戦させてあげてください。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果

《生活習慣等について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
毎日同じ時間に起きている。	72.9	88.8
毎日同じ時間に寝ている。	64.8	77.0
朝食を毎日食べていますか。	67.6	84.8
学校の決まりを守っていますか。	86.4	89.5
いじめはいけないことだと思いますか。	94.5	96.8
自分に良いところがあると思いますか。	48.6	84.0
1日30分以上読書をしていますか。	39.7	41.1

起床・就寝・朝食について好ましい習慣が付いているかという質問では、全国平均を下回りました。生活リズムが整っていないと、学習意欲や体力、気力の低下につながります。ぜひ、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を付けさせてください。

学校での決まりを守ることやいじめがいけないことだという意識は全国平均とほぼ同じで高い結果になりました。しかし、自分に良いところがあると思う児童の割合は、全国平均を非常に下回りました。学校でも家庭でももっと子供たちを認め、褒めていくことが必要です。「できたら褒める」のではなく「やろうとしたら褒める」こと、「過程を認める」ことが第一歩になると考えます。

読書については、30分以上読書をしている児童の割合は全国平均とほぼ同じです。しかし、10分より少ない児童が45.9%とほぼ半数となりました。今後、読書の習慣化への取組をさらに強化していきます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	13.5	29.3
平日1～2時間勉強している。	56.8	36.9
平日0～1時間勉強している。	29.7	33.8
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	97.3	97.2
家で、計画を立てて勉強している。(どちらかといえばしているも含む)	40.5	67.6
家で、授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	51.3	62.6

家庭学習を2時間以上している児童は13.5%でしたが、1時間以上している児童が、70.3%で全国平均を上回りました。目標時間の70分達成に向けて努力しています。学習内容については、宿題はきちんとしていますが、予習・復習については個々の意識に差があり、これが学習時間の差に直結していると思われます。中学進学に向けても計画を立て、自主学習の質・量をともに上げていく必要があります。

##### (2) 改善に向けての取り組み

###### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習(自学)についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示する等して定着しつつあります。これから中学年にも少しずつ広げていきたいと考えています。
- 今年度は、朝の読書タイムや図書室の貸出50冊・100冊の表彰、低学年での読書ボランティアによる読み聞かせなど、読書の機会を増やし、読書の習慣化に向けた取組を進めています。

###### 【ご家庭では】

- 生活習慣の定着については、「生活振り返りカード」を学期初めに実施しています。普段から規則正しい生活と家庭学習の定着に向けて家庭でもご協力をお願いします。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したことを逃さず、褒めることで意識が更に高まると思います。
- 家庭学習については「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。また、「家庭学習がんばろう週間」の取組の結果と考察を毎学期配布しております。ご家庭で取り組んで欲しいことを掲載しています。